復興まちづくり計画策定へ向けた

第 3 回地区別懇談会

日時・会場：

令和 3 年 10 月 22 日(金)	19:00	田上地区	田上社会教育センター
令和 3 年 10 月 24 日(日)	9:30	中谷地区	さかもと青少年センター
令和 3 年 10 月 24 日(日)	13:30	鮎帰地区	鮎帰社会教育センター
令和 3 年 10 月 27 日(水)	19:00	百済来地区	久多良木地区多目的集会施設
令和 3 年 11 月 3 日(水祝)	9:30	西部地区	西部地区多目的集会施設
令和 3 年 11 月 3 日(水祝)	13:30	深水地区	深水生活改善センター
令和 3 年 11 月 7 日(日)	9:30	中津道地区	坂本中学校体育館
令和 3 年 11 月 7 日(日)	13:30	藤本地区	坂本中学校体育館

○概要

事務局より、第 2 回地区別懇談会にて頂戴した、ご意見・ご提案を基に、地区ごとに復興まちづくり計画の素案を提案し、グループワークを行った。また地区で復興まちづくりの目標（キャッチフレーズ）について検討し発表いただいた。

（1）事務局より説明

復興へ向けたこれまでの取り組み

復興まちづくり計画策定へ向けて

（2）グループワーク

復興に向けた地区の課題を確認

復興まちづくりの目標・地区が目指す姿の検討

復興まちづくりプロジェクトの検討

復興まちづくりの目標（キャッチフレーズ）

○質疑応答・グループワーク

≪田上地区　参加者：15 名≫

【意見・質問等】
伐採により山林の荒廃が進んでいるが、国や県・市などで伐採のやり方などについて指導はしていないのか。

【回答】
山林を伐採する場合は伐採及び造林の届け出を市に提出するようになっている。八代市の場合は独自に伐採する方と造林される方の連名で届出を出すことになっていて、独自に自主行動規範というものに署名をいただく形をとっている。山林が荒廃しないように伐採を進める、林地残材が流出しないようにする、といった内容である。そういったものに署名いただいているにも関わらず、それに基づいて実施されていないようであればそれなりに指導などを行っていくことになると考えられる。問題があれば八代市の担当課へご連絡いただきたい。

【意見・質問等】
住まい再建についての財産を守る取り組みの中で、水災補償加入補助金というのが記載されており、対象が水害に対する補償が含まれた保険に加入している住宅となっている。令和 4 年度からの制度のようだが、現時点で加入している保険も対象となるのか、制度ができた以降に加入する保険だけが対象となるのか確認したい。

【回答】
新たに創設する制度となるため、過去に遡ってお支払いするのは難しい。何年分の保険料をまとめて支払うようなケースもあると聞き及んでおり、そういった部分については今後の制度設計のなかで対応を検討していきたいと考えているが、その場合でも例えば令和 2 年度・3 年度分の保険料を遡ってお支払いすることは難しいと考えている。保険の実態も調査を始めたばかりであるため、実態を把握した上で対応を検討したいと考えている。

【グループワーク】
課題・プロジェクト１について
・病院の早期開院を希望する。被災した病院は八代市街で施設を大きくするようだが、坂本町内のどこかに診療所的な「核」になるような病院をつくってもらいたい。
・年寄りが多く車で移動できる人もいるが、歳を取ってくると運転免許返納の問題もあるため、現在も公共交通の便はあるが、さらにきめ細かい移動手段を考えてもらいたい。
・百済木川と球磨川の川底をさらに深掘りする必要がある。現在は水面とあまり変わらない高さまで上がってきている。徐々に掘削しているが百済木川の河口部分が手つかずとなっているため、災害が起きないようにあらかじめ掘削をお願いしたい。
・災害時に避難所が設定されるが、坂本町では八竜小学校になっている。皆さん避難所まで移動できずに自宅での垂直避難などで考えているため、何かいい知恵があればと思う。
・高齢者の一人暮らしが多く、災害の避難所が喫緊の問題となっている。新築されたあさひ

の森保育園を巻き込んで自主避難所として活用していくことにより、課題は解決できる。
・高齢者ばかりになって車の運転もできなくなり、食料調達が難しくなっているというのが現状であり、道路も危険なため、移動販売の拡張をお願いしたい。車で移動できない人でも食料調達ができるようにして欲しい。
・河川に雑草が茂って環境も良くなくなっているため、整備をお願いしたい。

課題・プロジェクト２について
・温泉施設と絡めて釣り天広場・湧水公園を整備する必要がある。夏休みなどは小さい子供を連れて遊びに来る人が多く、駐車場もいっぱいになる。トイレが壊れているため早めに修理をお願いしたい。
・鶴喰で活動している段階としては、菜の花村、あさひの森の保育園に加えて、帰ってきた若者が地域もりあげ隊というのをやっているため、この３つの団体が地域づくりの核になると思う。
・観光・賑わいや農業の継承については、菜の花村が中心になり正月ツアーや田植え・稲刈り（収穫）体験などを行っており、エミューの餌やり体験なども考えられる。
・「学友の森」というのがあってまだあまり活用されていないが、非常に整備されているため、今後鶴喰・田上の観光資源の大きなポイントになると思う。
・温泉施設を利用した周辺のキャンプ場の整備が必要である。キャンプできるところもあるが、水害のために危険な状態になっている。釣り堀などもあるため、こうした地域資源を活用して外からの人を呼び込みたい。
・山林資源を活用して竹細工などの製作・販売など、最近は作ったものをインターネットなどでも販売できるため、地域の資源を活用した新たな産業を考えてはどうか。

課題・プロジェクト３について
・雑草が多い畑や野原がある。ヤギを利用して雑草を減らすような取り組みの話も聞いたことがあるため、何かいい考えがあれば。
・田上・鶴喰の場合は農業が中心になるため、菜の花村が中心になって農地の保全や雇用の面での課題に対応していってはどうかと思う。
・これからも高齢化が進む中では農業を継続していくことも難しくなり、遊休農地が出てくるため、外から来た人に対する農地を貸し出しして、週末を活用した農業体験から始めてもらってはどうか。自給自足のような形でできればと考えている。作物がたくさんとれるようであれば、インターネットなどでの販売等により一つの収入源に繋げていければと思っている。

復興まちづくりの目標（キャッチフレーズ）について
・せっかく温泉があるため、「温泉ゆたか　農産物ゆたかな　田上」というキャッチフレーズを提案したい。
・農業および様々な資源によって人を呼び込むことを目標として、「賑わいをつくるまち田上」などのキャッチフレーズを提案したい。
・人を呼び込むことによって賑わいに繋げていくことが重要だと考えている。
・「若者とお年寄りが　寄り添うまち　田上」というキャッチフレーズを提案させてもらいたい。

≪中谷地区　参加者：25 名≫

【意見・質問等】
球磨川水系緊急治水対策プロジェクトで示された写真の赤い点線は、被災した時の水位の位置なのか、治水対策した後の点線なのか、ここまでかさ上げするという位置なのか。また、小崎辻については、点線が空に昇っているように見える。

【回答】
点線は対策後の水位の高さをイメージとして示しており、かさ上げを行う場合にはこの辺りまでの高さになることを示している。場所によっては見にくいところもあるが、会場の壁にかさ上げ等する場合の高さの目安を示しているため、それがだいだい赤点線とあっているということでご理解いただきたい。

【意見・質問等】
前回の中学校での説明会の後で、掲示してある図面を確認したが、隣の家と自分の家はほぼ同じ地盤の高さだが、隣は 0～1mのかさ上げになっているのに対して、隣との境に等高線があり、自分のところは治水対策の対象外となっている。球磨川の坂本地区での計画流量を増やすということだが、今回の災害では 2mほど浸水し、流量が増えた場合はさらに 1mくらい深くなるのではないか。そうなると 3m～3.5mくらいは浸水するのではと思うが、治水対策で水位が下がるため、お宅は浸水しない、という説明を受けている。治水対策というのはどのような治水対策なのか。

【回答】
資料中に球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの実施計画を記載している。このプロジェクトで実際にどういったことをやるのかが記載されており、ダムや河道掘削の対策を実施していくことで水位を下げていくこととなる。かさ上げの高さについては、現時点ではあくまでも大まかな目安であり、皆さんに輪中堤やかさ上げを考えていただくための材料として、水位と現在の地盤高の高さをもとに大まかに示しているものであるため、今後より詳細な調査を実施していくことになる。

【回答】
赤点線は宅地のかさ上げか輪中堤か、個人・集落で話し合ってもらって、まちづくりの将来ビジョンとも連携してどのような復旧・復興事業が良いのか議論してもらうための材料としてお示ししているものである。対策後水位について、資料に宅地かさ上げ等の位置図を示しているが、「狭窄部」という記載がある。中流区間については八代市・球磨村・芦北町管内の約 40ｋｍがこれにあたる。治水の原則は洪水時の水位を下げることであるため、上流でダムや遊水地等を整備することで狭窄部に入ってくる水位を下げる。さらには中流区間を含めて掘削を実施していくことで水位を下げる。それでも昨年度豪雨では大きな豪雨があったため、輪中提・宅地かさ上げで皆さんの集落を守るという取り組みである。

【意見・質問等】
市が発表した支所周辺の整備イメージ図について、坂本駅前を 3mかさ上げしてそこに支所やコミュニティセンター等をつくるということで発表があったが、完成の目標は 2025

年となっている。これは実現可能なのかどうか、本当にできるのか。また、診療所については、災害復興住宅の申し込みなどに際しても、皆さんの声の中には坂本に帰っても病院がないということの不安、八代市街まで通院するとタクシー代が何千円もかかる、などといったことが聞かれる。無医地区にしてはならないという意向を踏まえた上で、一日も早く、4年後を待たずに日々の暮らしの中で不安を感じ署名を集め、現在2,000程集まっている。診療所については一日も早く仮設の、本格的な病院はどこかに作られるかもしれないが、仮の診療所をつくってもらいたい。

【意見・質問等】
今回のまちづくり計画の案が決定された後、それがどういう風に使われるのか、意見を聞くだけで、それから何年もかかるということでは八代市街に移転してしまう人もいるため、一日も早く仮設の診療所を作って欲しい。計画案をいつまでも案のままにしないで一日も早く実現してもらいたい。

【回答】
現在は訪問診療などの取り組みなども行っている。仮設診療所についてはコロナ感染症の問題もあって仮設で良いかという意見もあると聞く。医療の確保については関係者で議論を重ねている。計画の決定について、２月に復興計画を決定しているが、そこで掲げた取り組みについて、ロードマップを作って公表している。今回検討している復興まちづくり計画についても決定後には、地域の取り組みを盛り込んでいく形になるため、地域と行政で共有しながら取り組みを進めていきたい。

【回答】
支所の位置については元あった地域に3m程度かさ上げして支所を再建することとしている。郵便局・銀行なども含め最初あったところが皆さんも利用しやすいと思っている。支所建設の際には、郵便局や診療所なども近くに来てもらうなど、1か所に行けば用事が済むような形もどうかと考えている。盛り土にも時間を要するため、4年後を目途にという表現をしているが、治水対策によっては、かさ上げをもう少し高くする、もう少し下げるということもあるかもしれないため、まずは目途としてお示ししている。災害公営住宅については34件の仮申し込みがあり、5か所程度の候補地選定を進めており、近々公表ができるのではないかと思う。仮設診療所も安全度がなければならないため、医師会等々と協議をしているところであるため、ご理解をいただきたい。１日も早く再建したいと考えているため、皆さんにもご理解いただきながら進めさせていただければと思っている。

【グループワーク】
復興まちづくりの目標（キャッチフレーズ）について
・自然と共存し健康で文化と伝統を守るまち中谷
・伝統と文化を活かしみんなで楽しい地域づくり中谷
・みんなで作ろう笑顔と絆で築く中谷
・災害に負けない強い絆を持つ中谷
・明るい希望に満ちた幸せを実感するまち中谷

≪鮎帰地区　参加者：22 名≫

【意見・質問等】
鮎帰ではほとんど被災はなく、災害を我がこととして考えにくい状況だが、川の氾濫や道路の破損などはあった。災害や防犯など様々なことを含めて「住民が安心して暮らせる里鮎帰」※代表者案、各グループ同意。

【意見・質問等】
大平ダムの上流に住んでいる。昨年の 7 月豪雨でうちの地区の県道・市道・河川がかなりの被害を受けた。それはそれとして、先日、地区住民の皆様へという一枚の文書をいただいた。川原谷地区内で堆積物を高速の入り口に搬入するという。これを聞いて驚いた。熱海の土石流災害を想像したからである。この地に搬入するに至った経緯と、ここに土砂をおいても災害が発生する危険性はないのかお聞きしたい。

【回答】
その件は話を聞いていなかったため後でお名前をお聞きして連絡を差し上げたい。

【意見・質問等】
こういった話は支所などにも事前に話があってしかるべきであり、聞いていないというのは解せない。支所では本当にご存じないのか。

【回答】
先日、苦情の電話をいただいて県にも話をしている。トラックが何台か通行する際にスピードが速いという苦情だった。土砂搬入についても話はあったが県の土地であり、県から文書等で情報提供しているという認識である。安全面についても、こちらからも話をし、県を通じて住民からの要望があったということで伝えているため、今後もご協力を仰ぎながら皆様に情報提供ができればと思っている。

【意見・質問等】
他の地区で発生した土砂を私たちの地区に堆積することは問題ないのかということ。支所にも連絡がいっていないということにも納得いかない。こういうことでは全ての事がうまくいかないのではないかと危惧している。熱海の土石流も業者が堆積物を置くときに県の許可を取ったのだろうが、ああいう話で災害になった。この問題についても十分に関係者と話をして、支所並びに地区住民に十分に説明してもらいたい。

【グループワーク】
課題・プロジェクト１について
・復旧復興のためのまちづくりということで道路がまずしっかりしていなければならない。鮎帰は高速道路から入れるということで油谷や国道がだめでも高速道路が使える。各地区でほぼ 2 つは道路があるため片方が被災しても片方が使える。県道 17 号線、古屋敷の下の地蔵堂のところに排水路がある。道も川から下、低いということで排水路から逆流して道が浸かるため迂回路は高速道路があるが、道路を少し高めにしてもらえれば鮎帰全住民が活用できる。

・川について、登俣川、川自体が急傾斜であるため川の中にある大岩に流れが当たって跳ね返り家屋の下を掘るという状況が見受けられるため、解決が必要である。
・役割分担としては我々としては危険な箇所を具体的に示すことだと思っている。避難所も鮎帰全体が急峻な山のふもとにあり、土砂崩れなどの被害を受けやすい場所であるため、避難が一番の安全な方法だが、旧小学校は各地区から相当遠いところにあるため、車中避難や各地区でどの家が一番安全な家なのかを話し合って駆け込むというような形、3 番目には社会教育センターだが、そこまでの道路を整備しないと避難する際にも危険性があるためお願いしたい。また避難所への避難後、高齢者が多いため、夏は暑く冬は寒い避難所の設備の整備などをお願いしたい。
・河川は至る所に大きな岩が川の真ん中にある。護岸工事はされたが大きな岩があって水が出たら護岸工事をしたところが崩壊する可能性もあるため、河川の治水対策を見直してもらいたい。
・登俣の一番上流に砂防ダムがあり、昔は九電がダム内の土砂を撤去してくれたが 10 回程で打ち切りになっていて、今は完全に埋まっている状況である。その影響で上から滝のように河川に水が流れ込んでくる。それによって下の波消しブロックが下流に押し流されてきている。今のところはまだ 20～30mほど距離があるが大量の水がでたら小さな橋があるところを塞ぐのではないかと懸念している。そこは砂防ダムの手前の右側が大きく陥没しているため、大きな災害につながる前に修復してもらいたい。
・大きい問題点として、責・川原谷には避難所がなく社会教育センターまで遠いため避難できない人が多い。責分校があったところに避難所を整備してほしい。
・責、川原谷に行く道が陥没し、災害発生から手つかずの状態となっているため早期に修復してほしい。大平ダムの土砂撤去も早急にお願いしたい。
・課題のところに病院の確保に関する記載がないため、病院・銀行の再建などの追加をお願いしたい。

課題・プロジェクト２について
・代表者案で同意
・蛍を活かしたイベントはできないかという意見があった。期間としては１週間ぐらいだが、それでも一つの活性化につながるのではないか。
・何しろ高齢化が進んでいるため少しでも住民が残ってもらえるような安心して暮らせる里にしてもらいたい。
・地域の資源を活かした観光振興、もう少し賑わいを生みたいが、もう少し待ったほうがいいのではという意見もある。山林の間伐材を撤去して回復させる施策が必要である。
・賑わいを生む雇用創出ということでは、日光の棚田で[redacted]さんが麦を植えたいということだったが難しいため蓮華を植えるということだった。花が咲けば皆さん遊びに来られるのではないか。

課題・プロジェクト３について
・イベント・雇用創出などは地区の資源として棚田などが書いているが、鮎帰の大平で蛍が乱舞する時期がある。これは地区特有の現象であるし、シイタケを各家庭で作っているためそういった資源を活用して何かできないかと考えている。
・雇用の創出・促進などがあるが、細々と皆さん生きている。昔は段々畑を耕してつくったものを活用していたが高齢化で畑も荒れていて、何かできるような状況ではなく、雇用

については難しい状態ではないか。
・プロジェクト①について、河川・道路の安全性向上に対する意見があったが先ほど発表があったのと重複するため省略する。避難所も同じ意見があったので省略する。
・プロジェクト②について、日光の棚田についてのイベントなどの意見があった。現在、稲作を、移住された方が主体になってやっており、田植え・収穫稲刈り体験などを実施して熊本市内や八代からたくさんのボランティアが協力してやっている。それを鮎帰地区で盛り上げたらどうかという意見もあるため地区全体で盛り上げていってはどうかと思っている。その中で鮎帰の郷土料理である団子汁とか、そういうものができないかという意見があった。蛍についても意見があったが省略する。
・プロジェクト③について、雇用については、どこも一緒だが森林資源が豊富にあるが林道が少ないためもう少し林道が幅広ければ、林業の活性化につながるのではないか、地域の雇用にもつながっていくのではないか。日光では、林道が開設されているが昨年の豪雨で道が崩れて不通になっているため、復旧工事を至急やってもらって開通できると活性化につながるのではないかと思う。

その他
・辻・登俣・大平・稲入テーブルでは河川の安全・道路の安全性・避難所を主体に話をした。
・今回の災害で鮎帰地区では登俣川の方もかなり氾濫し、至る所で道路が欠損している。昔、畑だったところの石垣が崩れたところもあり、大変な状況になっている。その整備をどこまでやってくれるのか分かりにくいし連絡もない。非常に困惑している。
・地域の安全性向上ということで言えば、まずは道路の復旧、市道で登俣入口のところが鉄板を敷いてある。徐行してくれと言ってもしてくれない。早急に静かに通ってもらうような方法はないかと思っている。
・支所にもお願いはしているが、地区に情報が流れてこないという状況で、どんなふうになっているのか不安なところがあるため、こういった対策をするということや検討状況についての情報提供をお願いしたい。

≪百済来地区　参加者：23 名≫

【意見・質問等】
河川工事の件について、百済木川に大きな岩や土砂が堆積して以前よりも 2m ぐらい河床が上がっている。この土砂を撤去や河川の拡幅などはできないのか。今のままだったら同じような災害が必ず起きる。河川に堆積した土砂を撤去してダンプで運び出してということだと大変なので、撤去した土砂を使って道路のかさ上げを行ってはどうか。

【回答】
具体的にどこの土砂を撤去して欲しいということを伺わないと、どかすのかどうか判断できないため、後ほど具体的な場所を教えていただき、持ち帰って確認の上後日ご回答する。

【意見・質問等】
地元が何も説明を受けていない入札がどんどん実施されている。地元の住民は何も分からない状況があるため。入札前に地域住民への説明があればと思う。

【意見・質問等】
以前の懇談会では災害は原型復旧が基本で、今の高さ・今の川幅での復旧ということだったが、以前よりもかさ上げしたり、川幅を拡幅したりといった対応はできないのか。

【意見・質問等】
百済来地区の道路について、排水溝が狭いため詰まってしまい、4、5 箇所で道路に土砂が流れ込んで通行できないという状況が見られる。排水溝をもう少し大きくしないとそれほど大きな雨じゃなくても道路に土砂が流れてくるとところが何か所かあるため対応をお願いしたい。

【意見・質問等】
グラウンドの照明が撤去されてしまったため、夜になると真っ暗になって何もできない。夜のイベントなどをやる場合には照明が必要であるため、以前のようなものは必要ないが、何らか明かりが取れるような設備はできないか。

【回答】
グラウンドの照明はどういった経緯で撤去されたか分かりかねるが、ここに限らずグラウンドは夜も使えるように出来ればと考えているため、それについても一緒に検討を進めていければと考えている。そのような環境を整えることで、まちづくりも変わってくると思う。本日いただいた皆さんの様々なご意見を受けて、次回の懇談会で計画案として提案させてもらう。

【意見・質問等】
体育館を耐震化して使えるようにするといった話があると聞いたが、百済来ではそういう話は出ていないのか。この地区の体育館は、今は鳩の巣になっているが、何年か前はバドミントン部があって練習していた。耐震性の問題で使うことができなくなったと聞いて抗議文を書き、教育長から回答をいただいた。その時は使用できる期間を一年間延長するという回答だったが、その後使用できなくなった。オリンピック選手も出るようなクラブなのになぜできないのか。鉄骨の体育館でそう簡単に壊れることはないため、もしできるようであれば使用させてもらいたい。

【回答】
社会教育センターについては、耐震性の問題で使用できない状況になっており、百済来地区の体育館は教育委員会のほうで耐震強度不足ということで安全性を確保するためには仕方がなかったのだろうと思うが、後ほど聞いて残念な思いであった。今回、創造的復興を進める中では避難所の問題などもあり、地域の皆さんと協力しながら進めていかなければならないと考えている。

【意見・質問等】
プロジェクトのなかに「農業」ということで記載があるが、「農林業」という形に変えてもらいたい。また、その中で、高齢化が問題となっている林内作業士の育成をしてもらったらどうか。

【意見・質問等】
鳥獣対策を何とかできないか。狩猟免許の取得などをお願いしたい。

【グループワーク】
復興まちづくりの目標（キャッチフレーズ）について
・百済来地区の立地条件は坂本町の中でも八代市街から一番遠いため「奥」であり、百済来は農業・林業で生きてきたまちということで、またそこら辺を復活させてよいまちにしたい、ということで「坂本の奥座敷百済来　住みやすい明るい農村の実現」というキャッチフレーズを提案したい。
・「緑輝く　豊かな自然の恵みと　生き生き健康長寿のまち　百済来」というキャッチフレーズを提案したい。
・百済来地区に住むようになってから 17 年目になるが、ここに住むようになって自然が溢れており、また、食べ物がおいしいということで、「自然とおいしい食べ物が溢れる
自然豊かなまち　百済来」というキャッチフレーズを提案したい。
・さくらの雫などもあるため、「蛍が戻るまちづくり　百済来」「若者が戻るまちづくり
百済来」というキャッチフレーズを提案したい。
・地域の魅力を活用した交流促進を考えていく必要があり、百済来地蔵堂やさくらの雫などもあるため、「農業と伝統を守る　豊かなまち　百済来」というキャッチフレーズを提案したい。

≪西部地区　参加者：49 名≫

【意見・質問等】
２点確認したいことがある。もし地域で宅地かさ上げを行うとなった場合に、自分のところだけ、宅地かさ上げをしないという拒否権はあるのか。また、宅地かさ上げによる個人の負担金がどの程度になるか目安を教えてほしい。ローンを組むことができない高齢者にとって負担金額は非常に重要な問題である。

【回答】
宅地かさ上げについては、地域の状況を個別に見ながら検討していくことになるので、現時点では、何ともお答えしようがない状況である。また、負担金については、まずは家屋調査を実施し、補償基準に基づく積算を行った上で、ご判断いただくことになる。資金の目途が立たないというご意見は、9 月 25 日の説明会でも多くいただいている。11 月 20 日の説明会では、リバースモーゲージ制度のご紹介を含め、資金に関する支援等についてご説明させていただく予定である。

【回答】
宅地かさ上げについては、今後の説明会や協議の中で、出来るだけご協力をお願いしていくことにはなるが、あくまでも契約をした上でかさ上げを行うことになるため、積算額を踏まえて、かさ上げをしたくないということであれば、契約を行わないという選択もある。輪中堤にするのか、宅地かさ上げにするのかは、非常に重要な判断になるため、11 月 20 日の説明会や今後の意見交換会の中で、集落の在り方等も含めて、ご議論いただきたいと思う。

【意見・質問等】
現地再建については、輪中堤と宅地かさ上げの両方を行うのではなく、どちらかを選ぶという認識でよいか。

【回答】
両方を選ぶということは、基本的には出来ないと解釈していただければと思う。

【グループワーク】
課題・プロジェクト２について
・古田地区は、鉄道にも高速に近く利便性が高いまちだと思う。そうした部分で、若者にとっても住みやすいまちだと思う。ネックなのは、保育園や小学校、病院などの施設が整っていないことだが、車を使えば市街地の施設にアクセスできる状況である。

課題・プロジェクト３について
・みなし仮設住宅に入居している方へのアンケート調査を実施した。全部で 90 件程度の回答があった。その中で、西部地区に仮設住宅を整備してほしいとの要望が 10 件程度あった。是非、西部地区での仮設住宅の建設をご検討いただきたい。
・西部地区は、市街地から近く、住む場所としては一番良いところだと思う。若い人達に住んでもらうことが一番大事だと思うので、できれば市営住宅をつくり、若い人達が入居し、定着してもらえるとよい。

復興まちづくりの目標（キャッチフレーズ）について
・まちなか暮らしの人たちにとって、田舎暮らしの魅力があまり伝わっていないところがあると思うので、地区や田舎の良いところをもっとプッシュしてアピールしていくことが重要と考える。そこで、私たちのテーブルでは、「八代のベッドタウン」をキャッチコピーとした。
・小川地区では、「若者が楽しく住めるまち西部」、「心豊かな人とふれあうまち西部」を復興まちづくりの目標とした。
・私たちのテーブルでは、「市街地に近くて便利な住みやすい西部」を復興まちづくりの目標とした。
・先ほど発表したグループと、ほとんど同じで、「市街地に近く暮らしやすいまち　西部」を復興まちづくりの目標とした。
・西部地区の魅力といえば、豊かな自然環境と市街地に近い居住地だということ。そのため、私たちのテーブルでは、「自然・アクセスのよい心安らぐ魅力的なまち　西部」を復

興まちづくりの目標とした。
・「八代市街地へのアクセス性とホタルのいるきれいな川を生かしたまち　西部」を復興まちづくりの目標とした。
・本日説明いただいた「輪中堤・宅地かさ上げによる安全な居住地の確保」の内容を受けて、復興まちづくりの目標を「みんなが安心して住めるまち　西部」とした。
・復興に向けて、いろんな諸条件がある中で、一つ一つクリアしながら、みんなでまとまって、みんなの声を反映しながら復興を進めていくことが重要だと思う。そのため、「まーるくなって輪になって、さぁ前に進もう、レッツゴー　西部」を復興まちづくりの目標とした。

≪深水地区　参加者：19 名≫

【意見・質問等】
皆さん、本日はおつかれさまです。第 3 回目の地域懇談会ということで有意義な会を開催することができたと思います。市職員の良い提案のおかげだと思っております。心よりお礼申し上げます。八代市長のあいさつにもありましたが、私は皆さんの笑顔が好きです。ゆえに一刻も早く坂本町に本当の笑顔が戻るように、笑顔が坂本町の山々に響くように、早く計画を形にしたいと思います。正月まで 2 か月弱ですが、今後の皆さんのご健康とご多幸、八代市職員の更なる飛躍を祈念して、挨拶としたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

【グループワーク】
復興まちづくりの目標（キャッチフレーズ）について
・水と緑のふれあいの里助け合いのまち坂本深水
・水と緑豊かな大自然宝庫のまち深水
・老いも若きも住みなれた自然豊かなまち深水
・帰ってきたくなるむら深水

≪中津道地区　参加者：32 名≫

【意見・質問等】
なし

【グループワーク】
復興まちづくりの目標（キャッチフレーズ）について
・自然を満喫美しく元気なまち中津道

・みんなが集まる楽しいまち中津道
・美しい自然と笑顔あふれる中津道
・老いも若きも集まれるまち中津道
・いつでも帰れる元気になれる心のふるさと中津道
※本懇談会参加者の同意で、上記を中津道の目標として採用

≪藤本地区　参加者：66 名≫

【意見・質問等】
「道の駅さかもと」の方向性が出てきていない。どこで話し合えばいいのか。どこまでプランが進んでいるのか。今月も 3 回会議があるが、今までの議事録は公開しているのか。

【回答】
道の駅は道路の付属施設としての役割と広域交流拠点としての役割があるが、今後の道路、河川の復旧状況に応じて工事は進めていく。大事な地域資源であることは認識しているが、今回この場では地域資源として、引き続き活用を図っていく等の整理で良いと考えている。今後の復旧については、担当管理部署があるため、そちらの方で協議させていただく。議事録は課内でメモとして共有はしているが、現在公表はしていない。

【質問・意見等】
本日配布された資料は、市民に公表して審査を仰ぐものだと思う。可能な限り、議事録を含め即日公開してほしい。

【回答】
課内で協議して回答させていただく。

【グループワーク】
復興まちづくりの目標（キャッチフレーズ）について
・一人でも多く戻ってこられる住み残れるまち藤本
・一人の安心がみんなの安心みんなで助け合う明るいまち藤本
・自然再生と治水が両立できるまち藤本
・川と共に大人も子供も住み続けていく安心・安全なまち藤本
・みんなで目指そう災害に強いまち藤本
・災害にも負けないまちづくりを目指すまち藤本
・坂本町の中心地としてみんなが集いにぎわうまち藤本
・笑顔で暮らせる生きがいとふれあうまち藤本
・どこにでも誇れるわき合い合いなまち藤本
・元気な笑顔で助け合うまち藤本
・笑顔をつくろう！明るく元気なまち藤本
・一人ひとりが輝き笑い声が絶えないまち藤本　　以上